

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	千葉県
-------	-----

I 学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	千葉県成田市立三里塚小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	22
児童数	70	68	74	61	46	63	7	389	

II 研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を身に付けた子どもの育成
 -基礎・基本を重視した学習指導の工夫-

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・全学年・算数
 児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため。
- ・全学年・国語
 学校として、当該教科に関する研究実績があるため。(平成14年度)

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>○ テーマ「児童個々の理解や習熟の程度に応じた効果的な支援体制および授業改善のあり方について実践研究を通して明らかにするとともに、一人一人の児童に確かな学力を定着させる。」</p> <p>○ 研究の見通し</p> <p>算数科 算数科においては少人数指導等、日常の授業改善のあり方について授業実践を通して仮説検証を行う。 主題 「よくわかり、できる喜びを味わわせる算数指導」 仮説 ①領域や単元の特性に即した、教材・教具、算数的活動などを効果的に取り入れれば、よくわかり、できる喜びを味わわせることができるだろう。 ② T.T・少人数指導など、多様な学習形態を取り入れ、個に即した学習方法の工夫・改善を図れば、よくわかり、できる喜びを味わわせることができるだろう。 ③評価方法の工夫・改善を図り、より個に即した学習指導を行えば、よくわかり、できる喜びを味わわせることができるだろう。</p> <p>国語科 国語科においては、日常の読書活動や表現活動の充実を通して、児童個々の言語感覚を育てることを中心に実践し、児童の読解力表現力の育成を図る取り組みを行う。 具体的な取り組み ・ 読みの目的を明確にし、主体的な読みとりができるようにする。 ・ 説明文の基礎的・基本的事項を系統的に指導することで、言葉を大切に読んだ読みとりが進められるようにする。 ・ 日常的に言語能力を高める場を多くもつことで、伝え合う力の育成を行う。</p> <p>○ 研究の内容・方法 (1) 理論研究 ① 先行文献や実践校の視察等を通して、研究教科における効果的な指導方法の研究を行う。</p>
--------	---

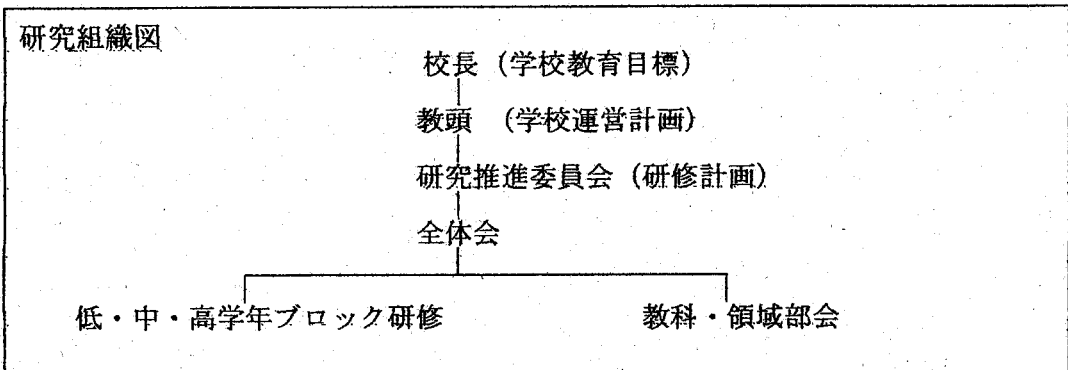
- ② 学力、基礎基本の内容に関する共通理解を行う。
- (2) 調査研究
 - 児童の興味・関心や学力の傾向を調査したり分析したりして、学校全体としての傾向や課題を明らかにする。
 - ① 県標準学力テストの実施結果の分析
 - ② 興味・関心度の継続調査と分析
 - ③ 各種評価テスト等による習熟度調査と分析
- (3) 実践研究
 - ① 今年度実施した個別指導や習熟度別指導のあり方を見直し、単元の指導における教師集団や学習集団のあり方について、すべての学年で一層の研究を進める。
 - ・少人数指導体制の工夫改善と効果的な指導のあり方の研究
(日課表の改善、指導体制と指導方法の改善 等)
 - ② 少人数指導における指導のあり方について、全ての学年で下記の研究をする。
 - ア 習熟度に応じた効果的な指導のあり方
 - イ 個別指導における理解を助ける教材、教具の工夫開発や活用、具体的操作活動の導入
 - ウ 一人一人の習熟度の評価のあり方
 - ③ 学力の定着を図る方策の研究を行う。
 - ア 日課表の工夫改善による教育課程への位置づけ
 - イ 全校ドリルタイム設置と効果的な運営の工夫
 - ④ 児童自ら主体的に学び、自ら自己の課題や学習の仕方に気づき、自己改善を図る方策について研究を行う。
 - ア ポートフォリオ的評価の導入、学年に即した自己評価の工夫改善
 - イ 教師の指導と評価の一体化を図る方策について研究を進める。
 - ⑤ 算数科と関連して全学年で、児童の基本的な読解力育成の為に国語科授業改善の研修を進める。

平成16年度

- テーマ「児童個々の理解や習熟の程度に応じた効果的な支援体制および授業改善のあり方について実践研究を通して明らかにするとともに、一人一人の児童に確かな学力を定着させる。」
- 研究の見通し
 - 算数科**
算数科においては少人数指導等、日常の授業改善のあり方について授業実践を通して仮説検証を行う。
 - 主題** 「よくわかり、できる喜びを味わわせる算数指導」
 - 仮説**
 - ① 領域や単元の特性に即した、教材・教具、算数的活動などを効果的に取り入れれば、よくわかり、できる喜びを味わわせることができるだろう。
 - ② IT・少人数指導など、多様な学習形態を取り入れ、個に即した学習方法の工夫・改善を図れば、よくわかり、できる喜びを味わわせることができるだろう。
 - ③ 評価方法の工夫・改善を図り、より個に即した学習指導を行えば、よくわかり、できる喜びを味わわせることができるだろう。
 - 国語科**
国語科においては、日常の読書活動や表現活動の充実を通して、児童個々の言語感覚を育てることを中心に実践し、児童の読解力表現力の育成を図る取り組みを行う。
 - 具体的な取り組み**
 - ・ 読みの目的を明確にし、主体的な読みとりができるようにする。
 - ・ 説明文の基礎的・基本的事項を系統的に指導することで、言葉を大切に読まれたり進められるようにする。
 - ・ 日常的に言語能力を高める場を多くもつことで、伝え合う力の育成を行う。
- 研究の内容・方法
 - ・ 児童の興味・関心度調査、学力の傾向の把握による指導計画や指導の工夫改善を図る。
 - ・ 習熟度別の少人数指導の効果的な指導について追求する。

- (各習熟度別のクラスの指導の改善, 習熟度に応じた教材教具の工夫改善)
- ・指導と評価の一体化を図る方策の研究を進める。
(児童の自己評価を生かした支援のあり方の追求, 個人差に応じた年間指導計画・指導体制の確立)
 - ・家庭や保護者, 地域の方との連携による学力を定着させるための協力体制の確立
 - ・国語科の言語感覚を育てるため, 読書活動, 表現活動の一層の充実を図る。

(3) 研究推進体制



Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

算数科

- 教材, 教具を工夫し, 身近な素材の提示を行うことにより, 学習への主体的な取り組みが多くなってきた。また, 習熟の度合いに応じた算数的活動を授業の中に取り入れるたことにより, 以前に比べ, 算数が好きになったり, 苦手意識が減少してきた。また, その理由も「答えがわかった。」「できた。」など, 児童の理解が高まった事によるものであると考えられる。
- IT・少人数指導で「きめの細かな指導」がなされるようになり, 個に即した支援ができるようになってきた。少しずつではあるが, 児童もよくわかるようになり, 「算数が楽しい」などの意識の変容がみられた。習熟度別や課題別などコース別の学習形態を取り入れたことで, 児童は自分のペースで学習したり, 課題をはっきりと持って取り組んだりできるようになってきた。
- 児童の自己評価カード・教師の評価規準表を作成し, 一人一人の児童の達成状況の把握に努めた。また, 事前・前提テストを実施しそれをもとに, 指導計画を立てるなど評価を指導に生かすことができるようになってきた。

国語科

- 読書活動については, 朝の読書タイムでの読書習慣がしっかり身に付き, 全学年とも集中して黙読できるようになった。表現活動については, 全校集会での発表の場が確保され, たくさんの人の前で表現する楽しさを味わうことができた児童が増えた。

2. 今後の課題

算数科

- 今後とも身近な素材の教材化をさらに進めるとともに, 習熟度に応じた教材教具の工夫を行う必要がある。また, 算数的活動については, 活動の内容や学習活動での位置づけなど, より効果的に取り入れる研究が必要である。
- 児童の実態に即した習熟度別学習をさらに取り入れ, 個人差を考えたより「きめ細かな指導」をめざした学習を実践していく必要がある。
- 今後, 指導と評価の一体化を一層進めるために, 1単位時間での評価の在り方や教師間の共通理解の在り方の工夫改善を図っていきたい。また, 児童自ら自己点検, 自己評価できる評価の在り方も追究していきたい。
- 読書の啓発活動をさらに充実させ, 自分の興味のある本だけでなく, 読書の幅を広げることができるようしていきたいと考える。
- 表現活動については, さらに, 学年や学級, 日常の表現活動の充実を図り, 児

童の学力を高めていければと思う。

IV 学力等把握のための学校としての取組

児童の学習状況の変容を捉えるために、年度始め（5月）、2学期末（11月）に児童の学習に対する意識調査（関心・意欲面）を実施。また、知識や思考面では2月中旬に県学力テストを実施し昨年度の状況との比較をする。

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

中間研究会を開催 日時…平成16年2月4日（水） 場所…三里塚小学校
対象…成田市内全小中学校及び印旛郡内希望校
会の目的…研究成果の普及及び研究協議
研究成果普及のためのHP作成・学力向フロンティアスクール中間まとめの作成を行った。今後の予定として、平成17年2月初旬に公開研究会を開催予定

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T、Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無